

国際交流・社会貢献等の概要

●国際交流活動の推進に向けて

大学における国際交流活動の推進に向けては、国際ビジネス学科を設置して以来様々な取り組みを実践してきた。その1つに授業科目として「グローバルコミュニケーション」を新たに設け、国際社会に対応できる人材の育成を図っている。これは本学が提供する海外プログラム（国際交流プログラム、海外研修、スポーツマネジメント研修等）や個人的な観光旅行で外国に渡航した際、臆することなく英語でコミュニケーションを取れる能力を養い、そして将来的に仕事で英語を使用することに対する希望と自信を持ってもらうことを目指す講義となっている。単なる語学学習ではなく、国際的な感覚、視野の広がりをも身に付けてもらい、実践として海外研修等への参加意識も高めている。そのため新たに規程も整備し、一定要件のもと海外研修の参加費補助制度も設けた。この授業は伊勢崎キャンパス、高崎キャンパスの両キャンパスで開講されており、受講する学生たちも定着し、実際に海外研修に参加する学生も増えていたが、コロナ禍の影響で研修は中断となっている。今年度から中止している海外研修の代替として、遠隔で行われる語学研修プログラムを構築し、今後の学生参加が期待されている。また、来年度には本学と提携する中国とシンガポールの大学との文化交流を予定しており、実施に向けた準備、調整が進められている。

さらにはここ数年スポーツにおいても海外からの留学生を積極的に受け入れている。人数はそれほど多くないものの、アジア圏以外にも留学生が定期的に留学している。競技ではバスケットボール、サッカーが主であり、継続的に留学生を迎えている。こうしたスポーツを通しての定期的な留学生の受け入れにより、海外関係機関との連携協定締結なども期待できる。

●大学間連携

従来から本学を含む群馬県内5大学（高崎商科大学、関東学園大学、共愛学園前橋国際大学、高崎健康福祉大学）による合同の企業研究会を開催していたが、ここでの大学間交流を基にして、より強固な連携協力関係を結ぶべく、平成27年度から5大学と株式会社スパンによる学生の就職支援を共同して行っていくための協定を締結している。これにより各大学での就職情報等を共有でき、人事交流なども盛んに行われることになり、学生たちが効率的な就職活動を行うため、様々な形で支援できるよう対応が図られている。今年度は8月25日にイベント高崎で開催された22卒合同会社説明会の後援を大学として行った。

●産学官連携

○包括連携協定等の締結

上武大学では平成26年度から平成28年度にかけて、地域社会の発展と人材育成への寄与を目的として、教育、文化、福祉、健康、地域産業、国際交流などの分野において連携、協力するための協定を群馬県内各自治体と結んだ。まず平成27年2月に伊勢崎市との協定をとりまとめ、続いて玉村町、富岡市、渋川市、藤岡市の大学近隣5市町村との包括協定を順次結んでいる。協定締結以前から協力関係にあった上武大学と近隣市町村であるが、これにより様々な分野で一層の協力・連携関係が築かれることになっている。

具体的には各市町村やその教育委員会が主宰して開催する市民・町民向けのスポーツイベントの運営補助や競技補助業務や、各市町村が運営する施設で玉村町陸上教室などの文化事業の開催などがある。

なお高崎市とは部分的協定ではあるが、災害時における施設利用に関する協定を取り交わし、高崎キャンパスのある新町地区の防災に関して、高崎市と連携しながらその対応策の検討を行うこととなっている。

○文部科学省主宰「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」への参画

標記補助事業には群馬県も積極的にに関わり、県が主導する形で群馬県への就業率向上を目的として、共愛学園前橋大学が核となり、本学と高崎商科大学、明治学院大学が協力する参加校として連携し、平成27年度補助事業の採択を受けた。ここには群馬県をはじめとして、高崎市、前橋市、伊勢崎市、富岡市の自治体も加わり取り組みを推進している。大学卒業後の群馬県内への就業率上昇を目標に掲げ、大学、自治体そして県内の企業も積極的に協力していく体制が整い、本学をはじめとする各大学も協力して具体的な取り組みを検討・推進している。

○「グローバル・ハタラクラス群馬」コンソーシアムへの参画

群馬県を中心とする県内各自治体と、群馬大学を主とする県内大学が参画して、留学生の受け入れと環境充実を推進していくプロジェクトを実施している。本学もこれに加わり、澁谷学長は運営委員の1人となりプロジェクトの推進に協力している。

○群馬地域大学連携協議会への参画による地域貢献

群馬県が主体となり、県内の自治体が抱える問題・課題解決に大学が積極的に加わり、ともに地域貢献事業を実践していくための組織。本学もこの協議会に参画しており、その中で渋川市の案件として、総合型スポーツクラブの運営協力や、スポーツイベントなどの競技補助などの業務において協力している。

○高大連携の推進

群馬県内の高等学校のうち、吉井高校、高崎東高校、榛名高校、高崎高等特別支援学校の4校とは高大連携協定を締結している。内容として高等学校におけるカリキュラム支援や、テーマ学習の共同研究・発表、共同のボランティア活動、キャリア教育支援、などである。コロナ禍で停止している状況ではあるが、榛名高校の新入生オリエンテーションでは毎年絵手紙体験を行っており、本学から担当の職員を派遣し、講習と実技指導を実施している。

●社会貢献活動と地域連携

本学高崎キャンパスがある高崎市新町において、地元の商店連盟・商工会議所と協定を締結し、新町地区の活性化のために、学生達も協力しながら様々な活動を行っている。具体的には新町祭り及び新町商工祭への企画参画と運営補助、などがありその他にも学生たちはいろいろなボランティア活動により、町の運営に協力している。また富岡製糸場と同様の歴史的価値のある建造物、新町紡績所の世界遺産追加登録に向けて、「よみがえれ！新町紡績所の会」とも包括協定を締結し、大学と町を挙げて、文化的活動を推進している。なおこうした学生たちの積極的なボランティア活動を大学としても評価しており、「社会貢献実践」という新たな授業科目を導入し、学生のボランティア活動に対して単位も付与している。これらを取りまとめる組織として、大学にはボランティアセンターも設置している。 去年度の活動実績として令和2年11月28日、高崎キャンパスの側を流れる烏川に飛来する白鳥保護を目的とした河川敷の清掃活動に「社会貢献実践」受講者とボランティアサークルの学生計21名が参加し、参加者の大きな袋がいっぱいになるほどのゴミを回収した。活動は12月、1月にも実施される予定だったが、コロナ感染症の群馬県の警戒レベルが引き上げられた影響でやむなく中止となった。

○救急救命士コース開設に伴った活動

平成31年4月よりビジネス情報学部（伊勢崎キャンパス）に新たに救急救命士コースが開設された。このコースの活動拠点ともなる救急救命センターには実際の救護活動に利用される様々な機械器具や設備があり、救急車も配備されている。現時点では学生たちだけで救護活動などを展開することは難しいが、救急救命士の資格を持った教員が常日頃指導を行うことで、補助活動等は実践できるようになっている。学外では令和2年11月23日に前橋市で行われたeスポーツイベント「Lanらん群馬」では学生3名と教員2名が救護ボランティアとして大会の運営に係わった。

○スポーツトレーナー活動

本学の柔道整復師コースの学生達で構成されているトレーナーサークルは、大学との協定を締結している自治体が企画・運営するスポーツ事業に積極的に参画しており、学びを実践できる場としても機能させている。具体的には以下に挙げる競技会等において、独自のブースを設置し、参加者たちの競技前後の身体的ケアを行っている。去年度はコロナ禍でほとんどの大会等のイベントが中止となったので以下は一昨年の実績である。

- ① 伊勢崎市による伊勢崎シティマラソン大会（令和元年12月）
- ② 桐生市による渡良瀬遊水地トライアスロン（令和元年5月＊協定外）
- ③ 富岡市による妙義山ビューライド（令和元年5月）

○授業等を通じたボランティア活動

- ・ 白鳥見守り隊への参加

令和2年11月28日

学生21名が参加。

高崎キャンパスのほど近くを流れる烏川河川敷において、飛来した白鳥の保護を目的にゴミ拾い等の環境整備を行った。時期が早かったため、残念ながら白鳥は見られなかったが、上流から流れてきたもの、捨てられたものなどゴミの量が多く、参加者のゴミ袋はすぐに一杯になった。

ボランティア活動については、毎年、地元自治体による地域活性化事業やその他イベントなどの支援活動も行っているが、令和2年度はコロナ禍の影響もあり、イベントの中止、活動等も自粛した。